

定期作況報告

平成9年11月

(11月20日現在、最終)

北海道立北見農業試験場

1 . 気象経過

1) 前年9月以降の経過

9月：上旬の最高気温は平年より極めて低く、最低気温は低く、平均気温は極めて低かった。中旬の最高気温は平年により高く、最低気温はやや高く、平均気温は高かった。下旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温はやや低く、平均気温は平年並であった。降水量は上旬が平年よりやや多く、中旬が極めて少なく、下旬が平年並であった(月合計104mmで平年の82%)。日照時間は上旬が平年より極めて少なく、中旬と下旬が平年並であった(月合計96.6時間で平年の81%)。

10月：上旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温と平均気温は平年並であった。中旬の最高気温、最低気温及び平均気温はいずれも平年よりやや低かった。畑地温は上旬が平年並であった。降水量は上旬が平年よりやや多く、中旬がやや少なく、下旬が極めて少なかった(月合計36mmで平年の60%)。日照時間は上旬が平年より少なく、中旬と下旬が平年並であった(月合計129.6時間で平年の90%)。

なお、晩霜が平年より5日遅く、初霜が3日早かったため無霜期間は8日間短かった。

11月：上旬の最高気温は平年並で、最低気温と平均気温はやや低かった。中旬の最高気温、最低気温、平均気温はいずれも平年より極めて低かった。下旬の最高気温は平年並よりやや高く、最低気温は高く、平均気温はやや高かった。降水量は上旬と中旬が少なく、下旬が平年並であった(月合計29mmで平年の58%)。日照時間は上旬が平年並で、中旬が少なく、下旬が平年並であった(月合計109.0時間で平年の91%)。

なお、根雪始は12月1日で平年より6日早かった。

2) 根雪期間中の経過

12月：上旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温は極めて低く、平均気温は低かった。中旬の最高気温は平年より高く、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年並であった。下旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温は極めて低く、平均気温は低かった。降水量は上旬が平年より少なく、中旬と下旬が平年並であった(月合計28mmで平年の70%)。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬と下旬が多かった(月合計135.2時間で平年の128%)。

1月：上旬の最高気温は平年並で、最低気温は極めて高く、平均気温は高かった。中旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温はやや低く、平均気温は平年並であった。下旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年並で、平均気温はやや高かった。降水量は上旬が平年より多く、中旬と下旬が平年並であった(月合計38mmで平年の165%)。日照時間は上旬が平年より少なく、中旬と下旬が平年並であった(月合計98.3時間で平年の86%)。

2月：上旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温は高く、平均気温は高かった。中旬の最高気温、最低気温、平均気温はいずれも平年並であった。下旬の最高気温は平年並で、最低気温は平年より極めて低く、平均気温は低かった。降水水量は上旬、中旬、下旬がいずれも平年より多かった(月合計40mmで平年の167%)。日照時間は上旬が平年より少なく、中旬がやや少なく、下旬がやや多かった(月合計118.0時間で平年の93%)。

3月：上旬の最高気温は平年並で、最低気温は低く、平均気温はやや低かった。中旬の最高気温は平年より低く、最低気温は極めて低く、平均気温は低かった。下旬の最高気温は平年より高く、最低気温は平年並で、平均気温はやや高かった。降水量は上旬がやや少なく、中旬が少なく、下旬が多かった(月合計33mmで平年の114%)。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬が少なく、下旬がやや多かった(月合計162.7時間で平年の96%)。

3) 融雪期以降の経過

4月：上旬の最高気温は平年より高く、最低気温はやや高く、平均気温はやや高かった。中旬の最高気温は平年より低く、最低気温は極めて低く、平均気温は低かった。下旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温はやや高く、平均気温は高かった。降水量は上旬と中旬が平年並で、下旬が少なかった(月合計32mmで平年の62%)。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬が平年より少なく、下旬が平年並であった(月合計135.2時間で平年の99%)。

なお、融雪期は3月31日で平年より8日早く、根雪期間は125日で平年より4日間短かった。耕鋤始は4月25日で平年より2日早かった。

5月：上旬の最高気温、最低気温、平均気温はいずれも平年並であった。中旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温はやや高く、平均気温は平年並であった。下旬の最高気温は平年に比べて極め

て低く、最低気温はやや低く、平均気温は極めて低かった。降水量は上旬が平年並で、中旬がやや多く、下旬が少なかった（月合計49mmで平年の84%）。日照時間は上旬が平年並で、中旬が平年より少なく、下旬が少なかった（月合計100.8時間で平年の70%）。

6月：上旬の最高気温、最低気温、平均気温はいずれも平年より極めて低かった。中旬の最高気温は平年に比べて極めて高く、最低気温はやや高く、平均気温はやや高かった。下旬の最高気温は平年に比べて高く、最低気温と平均気温は極めて高かった。降水量は上旬が平年より多く、中旬が少なく、下旬がやや少なかった（月合計43mmで平年の75%）。日照時間は上旬が平年より少なく、中旬がやや多く、下旬がやや少なかった（月合計95.8時間で平年の77%）。

7月：上旬の最高気温は平年に比べやや高く、最低気温と平均気温は高かった。中旬の最高気温は平年に比べて高く、最低気温は平年並みで、平均気温はやや高かった。下旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温は高く、平均気温は極めて高かった。降水量は上旬が平年並で、中旬が平年より多く、下旬が平年並であった（月合計101mmで平年の128%）。日照時間は上旬が平年より少なく、中旬がやや少なく、下旬が多かった（月合計119.3時間で平年の89%）。

8月：上旬の最高気温は平年並で、最低気温は平年よりやや高く、平均気温はやや高かった。中旬の最高気温、最低気温、平均気温はいずれも平年より極めて低かった。下旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温は極めて低く、平均気温は低かった。降水量は上旬が平年より多く、中旬が平年並で、下旬は少なかった（月合計160mmで平年の131%）。日照時間は上旬と中旬が平年より少なく、下旬が多かった（月合計86.7時間で平年の67%）。

9月：上旬の最高気温は平年より高く、最低気温は平年並で、平均気温はやや高かった。中旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温は平年より低く、平均気温は平年より低かった。下旬の最高気温は平年より低く、最低気温は平年並みで、平均気温はやや低かった。降水量は上旬が平年より少なく、中旬がやや多く、下旬が平年並であった（月合計103mmで平年の84%）。日照時間は上旬が平年より多く、中旬がやや少なく、下旬が少なかった（月合計101.4時間で平年の90%）。

10月：上旬の最高気温は平年並であった、最低気温は平年よりやや高く、平均気温はやや高かった。中旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温は平年より低く、平均気温は平年よりやや低かった。下旬の最高気温は平年並で、最低気温と平均気温は平年よりやや低かった。降水量は上旬が平年より多く、中旬と下旬がやや少なかった（月合計59mmで平年の97%）。日照時間は上旬と中旬が平年よりやや少なく、下旬がやや多かった（月合計155.7時間で平年の109%）。

11月：上旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温はやや低く、平均気温はやや低かった。中旬の最高気温は平年より高く、最低気温は極めて高く、平均気温は高かった。降水量は上旬が平年より少なく、中旬が多かった。日照時間は上旬が平年より多く、中旬がやや少なかった。

農耕期間中（5月～10月）の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較してみると、次のとおりである。

気温：5月上旬から8月上旬までは、5月下旬と6月上旬が低く、7月下旬が極めて高かったが、全般に平年並みかやや高く経過した。8月中旬以降は、9月上旬と10月上旬が平年並みであったが、全般にやや低く経過した。農耕期間中（5月～9月）の積算平均気温は平年よりやや低かった。

降水量：5月上旬から8月上旬までは、6月中旬と7月下旬に少なかったが、全般に多く経過した。8月中旬以降は、8月中旬と9月中旬から9月下旬に平年並みであったが、全般にやや少なく経過した。農耕期間中（5月～9月）の降水量は平年並であった。

日照時間：5月上旬から8月中旬までは、6月中旬と7月下旬に多かったが、全般に少なく経過した。8月下旬以降は、9月中旬と下旬に少なかったが、全般にやや多く経過した。農耕期間中（5月～9月）の日照時間は平年より少なかった。

以上のことから、本年の農耕期間中の気象は、降水量は平年並みで、やや低温、寡照であった。

気象表 1 - 1

項目 月旬	平均気温 ()			最高気温 ()			最低気温 ()			降水量 (mm)			日照時間 (h)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
平成8年 9月	上	14.2	16.9	2.7	17.9	21.4	3.5	10.8	12.5	1.7	44	36	8	18.4	41.5	23.1
	中	16.3	14.5	1.8	21.6	19.2	2.4	11.5	10.0	1.5	8	43	35	37.7	40.3	2.6
	下	12.8	12.7	0.1	18.6	17.6	1.0	7.3	7.9	0.6	52	48	4	40.5	37.5	3.0
10月	上	9.9	10.3	0.4	14.9	16.4	1.5	4.1	4.4	0.3	17	9	8	33.7	49.1	15.4
	中	7.0	8.5	1.5	12.8	14.1	1.3	1.8	3.1	1.3	13	23	10	43.0	45.4	2.4
	下	7.3	6.0	1.3	14.0	11.7	2.3	0.9	0.7	0.2	6	28	22	52.9	49.8	3.1
11月	上	3.2	4.0	0.8	9.0	9.1	0.1	-2.5	-1.3	1.2	3	21	18	39.8	41.6	1.8
	中	-2.4	1.4	3.8	2.9	6.5	3.6	-7.6	-3.4	4.2	6	11	5	34.9	42.9	8.0
	下	0.3	-1.0	1.3	4.0	3.4	0.6	-3.7	-5.4	1.7	20	18	2	34.3	34.8	0.5
12月	上	-4.7	-2.3	2.4	0.6	2.3	1.7	-10.2	-6.9	3.3	8	14	6	40.1	36.1	4.0
	中	-6.2	-6.6	0.4	-0.4	-1.6	1.2	-12.5	-11.8	0.7	6	9	3	45.0	33.6	11.4
	下	-8.5	-6.6	1.7	-2.7	-2.0	0.7	-15.2	-12.0	3.2	14	17	3	50.1	35.6	14.5
平成9年 1月	上	-6.2	-8.5	2.3	-2.3	-2.5	0.2	-11.3	-14.9	3.6	25	6	19	14.7	34.0	19.3
	中	-9.7	-9.4	0.3	-3.1	-3.7	0.6	-16.0	-15.2	0.8	5	7	2	39.6	36.3	3.3
	下	-9.2	-9.8	0.6	-2.5	-4.1	1.6	-15.5	-15.7	0.2	8	10	2	44.0	44.2	0.2
2月	上	-8.0	-9.6	1.6	-2.8	-3.5	0.7	-13.5	-15.9	2.4	12	6	6	33.1	44.7	11.6
	中	-8.2	-8.5	0.3	-2.3	-2.5	0.2	-14.4	-14.8	0.4	15	6	9	41.9	48.5	6.6
	下	-7.8	-6.2	1.6	-1.0	-1.1	0.1	-15.8	-11.7	4.1	13	9	4	43.0	33.2	9.8
3月	上	-6.5	-5.8	0.7	0.0	-0.5	0.5	-13.6	-12.1	1.5	3	5	2	53.2	56.3	3.1
	中	-4.9	-2.6	2.3	0.0	2.2	2.2	-10.7	-8.1	2.6	0	9	9	39.9	52.4	12.5
	下	-0.1	-1.3	1.2	5.6	3.4	2.2	-6.5	-7.0	0.5	30	15	15	69.6	60.4	9.2
4月	上	3.8	2.4	1.4	9.4	7.3	2.1	-1.3	-2.4	1.1	9	13	4	55.2	46.8	8.4
	中	1.4	3.7	2.3	7.4	9.2	1.8	-4.6	-1.5	3.1	16	16	0	34.0	45.9	11.9
	下	8.3	6.1	2.2	14.7	11.7	3.0	1.7	0.3	1.4	8	22	14	46.4	44.4	2.0

注) 平年値は10か年間の平均。

气象表 1 - 2

項目	平均气温 ()			最高气温 ()			最低气温 ()			降水量 (mm)			日照時間 (h)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
平成9年 5月	上	7.9	7.7	0.2	13.8	13.4	0.4	2.2	1.9	0.3	20	17	3	42.4	44.4	2.0
	中	10.1	10.5	0.4	15.3	16.6	1.3	5.5	4.4	1.1	26	20	6	25.7	46.9	21.2
	下	9.1	12.0	2.9	14.3	18.2	3.9	4.4	5.9	1.5	3	21	18	32.7	52.5	19.8
6月	上	9.3	13.3	4.0	13.2	18.6	5.4	5.5	8.5	3.0	31	18	13	19.3	35.6	16.3
	中	15.7	13.9	1.8	22.9	18.9	4.0	9.9	9.5	0.4	3	22	20	52.7	38.3	14.4
	下	17.7	15.1	2.6	22.7	20.7	2.0	12.9	9.8	3.1	9	17	9	23.8	50.2	26.4
7月	上	18.6	16.9	1.7	23.6	22.3	1.3	13.8	11.6	2.2	24	20	4	18.9	52.2	33.3
	中	18.4	17.5	0.9	23.8	22.1	1.7	13.8	13.5	0.3	55	33	22	24.8	35.7	10.9
	下	23.0	19.5	3.5	29.0	24.3	4.7	17.6	15.3	2.3	22	26	5	75.6	46.7	28.9
8月	上	19.5	18.9	0.6	24.0	24.1	0.1	15.5	14.2	1.3	106	31	75	17.7	46.9	29.2
	中	13.7	19.4	5.7	16.9	23.6	6.7	11.1	15.6	4.5	34	33	1	5.5	36.1	30.6
	下	17.4	19.0	1.6	22.9	23.8	0.9	12.0	14.8	2.8	20	58	39	63.5	47.1	16.4
9月	上	17.5	16.7	0.8	23.0	21.1	1.9	12.2	12.4	0.2	10	30	20	55.3	38.9	16.4
	中	12.6	14.7	2.1	17.8	19.4	1.6	7.9	10.3	2.4	48	43	5	28.8	37.7	8.9
	下	11.6	12.7	1.1	15.5	17.5	2.0	8.2	7.9	0.3	45	50	5	17.3	36.2	18.9
10月	上	10.9	10.5	0.4	15.9	16.4	0.5	5.1	4.7	0.4	32	10	22	49.2	47.2	2.0
	中	7.7	8.7	1.0	13.8	14.3	0.5	1.1	3.4	2.3	14	25	11	42.8	44.2	1.4
	下	5.2	6.3	1.1	11.7	12.2	0.5	- 0.3	0.9	1.2	13	26	14	63.7	50.9	12.8
11月	上	3.2	4.0	0.8	9.8	9.1	0.7	- 2.3	- 1.3	1.0	3	21	19	53.1	41.8	11.3
	中	3.7	1.2	2.5	8.6	6.3	2.3	- 0.3	- 3.7	3.4	31	10	21	35.1	42.5	7.4

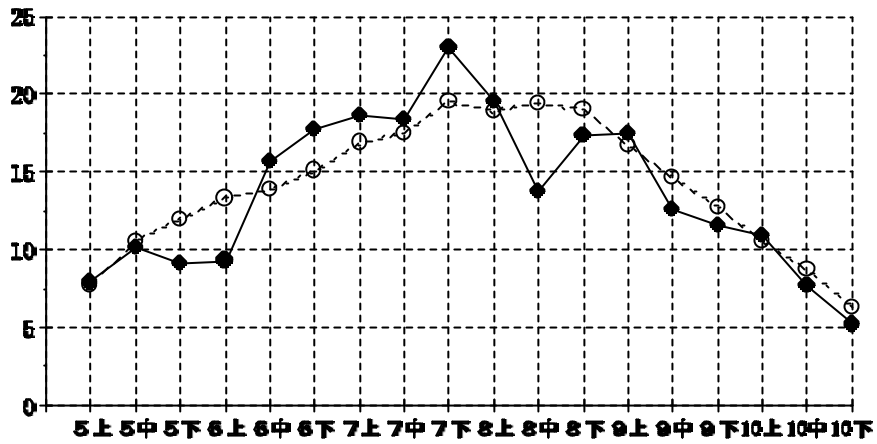
季節表

項目 年次	前年 根雪始	融雪 期	根雪 期間	耕鋤 始	降雪 終	晩霜	初霜	無霜 期間	降雪 始	農耕期間の積算(5~9月)		
	月日	月日	日数	月日	月日	月日	月日	日数	月日	平均気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (h)
本年	12.1	3.31	121	4.25	5.8	5.28	10.7	131	10.26	2,270.5	456	504.0
平年	12.7	4.8	125	4.27	5.4	5.23	10.10	139	11.4	2,328.5	439	645.4
比較	6	8	4	2	4	5	3	8	9	58.0	17	141.4

2. 気温、降水量及び日照時間の平年との比較 (5月～10月)

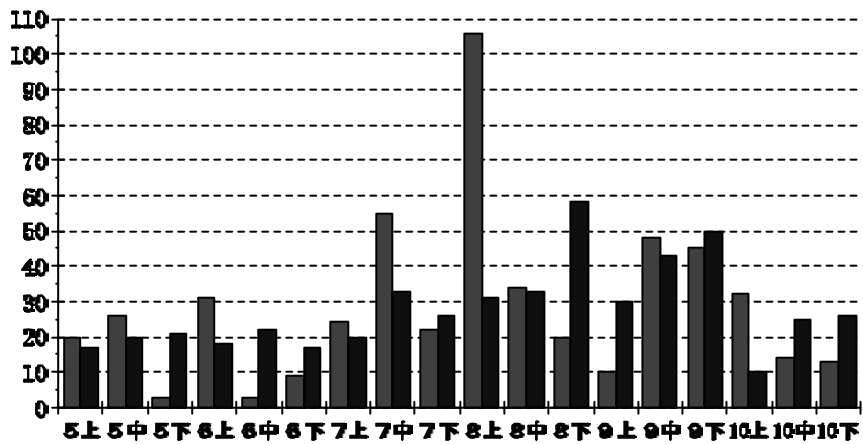
平均気温の比較 (°C)

● 本年 ○ 平年



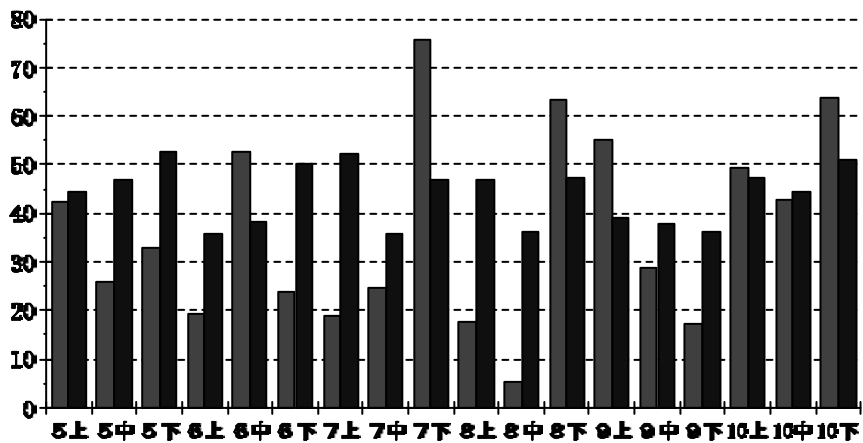
降水量の比較 (mm)

■ 本年 ■ 平年



日照時間の比較 (h)

■ 本年 ■ 平年



2. 当場の作況

1) 秋播小麦

1)〔平成8年度播種〕

作況：やや不良

事由：播種は9月13日で、平年並か1日早く、出芽はほぼ平年並みで良好であった。秋期の天候は、10月下旬と11月下旬を除いて低温で、全体に少雨に経過した。そのため越冬前の生育量は平年に比べ草丈は低く、茎数は平年並みかやや多かった。根雪始めは12月1日で平年より6日早く、融雪期は3月31日で平年より8日早く、根雪期間は

121日で平年より2日短かった。冬枯れの被害はいずれの品種ともきわめて少なく極微の発生であった。春先は融雪期が早く、比較的温暖な天候に恵まれたため生育は進んだが、5月下旬と6月上旬には極端な低温と日照不足となり、生育は大幅に停滞した。そのため出穂期は平年に比べ5～7日遅れた。出穂後は一変して気温が高く、降水量はやや多く、日照は平年よりかなり少なく推移した。そのため生育は軟弱となり、7月上旬から「タクネコムギ」で倒伏が始まり、「ホロシリコムギ」「チホクコムギ」と順次倒伏が発生し、7月中旬には全品種とも全面倒伏した。登熟中期かたの激しい倒伏のため、粒の充実に悪影響した。成熟期は平年に比べ3～4日遅れ、成熟期の稈長は平年並み、穂長は長く、穂数は平年を大幅に上回った。倒伏、日照不足の影響で未熟粒が多く発生し、穂数の割りに収量は低く、「ホロシリコムギ」で平年をわずかに上回った他は「チホクコムギ」はやや下回り、「タクネコムギ」はかなり下回った。千粒重は平年に比べかなり小さく、リットル重も平年より軽かった。外観品質は平年とほぼ同じ2等にランクされたが、2下と悪い方に属し、平年よりやや劣った。

以上のことから本年の作況はやや不良である。

秋播小麦の生育期節と収量

項目	品種名 年	ホロシリコムギ			タクネコムギ			チホクコムギ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(月・日)		9.13	9.13	0	9.13	9.14	1	9.13	9.14	1
出芽期(月・日)		9.20	9.20	0	9.20	9.20	0	9.20	9.20	0
出穂期(月・日)		6.20	6.13	7	6.10	6.5	5	6.20	6.15	5
成熟期(月・日)		7.31	7.28	3	7.24	7.21	3	7.30	7.26	4
草丈 (cm)	平8年11月20日	20.5	22.1	1.6	19.3	20.6	1.3	19.6	21.9	2.3
	平9年5月20日	51.0	44.9	6.1	49.4	45.0	4.4	42.2	40.1	2.1
稈長 (cm)	平9年6月20日	99.2	104.8	5.6	106.0	104.9	1.1	92.1	94.8	2.7
	平9年7月20日	101	101	0	99	99	0	95	96	1
茎数 (本/m ²)	平8年11月20日	1825	1588	237	1702	1686	16	1789	1806	17
	平9年5月20日	1968	1597	371	1713	1541	172	1764	1682	82
穂数 (本/m ²)	平9年6月20日	962	849	113	983	988	5	862	893	31
	平9年7月20日	811	712	99	978	877	101	805	759	46
穂長 (cm)	平9年7月20日	9.0	8.6	0.4	7.8	7.6	0.2	7.4	7.0	0.4
子実重(Kg/10a)		554	545	9	478	512	34	530	535	5
同上平年比(%)		102	100	2	93	100	7	99	100	1
1リットル重(g)		756	789	33	770	804	34	751	773	22
千粒重(g)		37.8	41.0	3.2	35.8	37.2	1.4	29.2	35.2	6.0
検査等級		2	2	0	2	1	1	2	2	0

注) 平年値は前7か年中、「ホロシリコムギ」は平成5、8年、「タクネコムギ」「チホクコムギ」は平成4年、8年を除く5か年の平均。

ホク

2)〔平成9年9月播種〕

作況：平年並

事由：播種は平年並みか1日早い9月13日に行い、出芽は9月20日で良好であった。出芽後順調に生育しており、越冬前の生育としては、草丈は平年を下回っているが、茎数は平年より多く、本葉6葉に達しており、越冬態勢としては良好と見られる。

以上のことから目下の作況は平年並である。

品種名	播種期(月・日)			出芽期(月・日)			草丈(cm)			茎数(本/m ²)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホロシコムギ [*]	9.13	9.13	0	9.20	9.20	0	17.6	22.0	4.4	1623	1575	48
タネコムギ [*]	9.13	9.14	1	9.20	9.20	0	17.5	20.4	2.9	2225	1687	538
チホクコムギ [*]	9.13	9.13	0	9.20	9.20	0	18.3	21.6	3.3	2019	1789	230

注) 平年値は前7か年中、「ホロシコムギ」は平成5年、8年、「タネコムギ」「チホクコムギ」は平成4年、8年を除く5か年の平均。

2) 春播大麦(二条大麦) 作況: 平年並

事由: 播種期は平年より3日早い5月2日であった。出芽まで日数はほぼ平年並で、出芽期は平年より2日早く、5月14日であった。出芽後は気温が低かったため、生育はゆっくり進んだ。このため、分けつの発生する期間は長くなり、6月20日の莖数は平年より多かった。6月下旬は気温が高かったため、生育は進み、出穂期は平年並の7月5日であった。分けつの発生が旺盛であったため、穂数は平年より多かった。7月中旬以降の降雨により倒伏が中程度発生し、登熟はやや劣った。7月下旬の気温が高かったため、成熟期は平年より4日早い8月4日であった。倒伏により粒の充実はやや劣り、千粒重は平年よりやや小さく、整粒歩合もやや低かった。しかし、穂数は平年より多かったため子実重は平年比98%であった。粗蛋白質含量はほぼ平年並であった。

以上のことから本年の作況は平年並である。

二条大麦の生育期節と収量

項目	品種名	りょうふう		
	年・比較	本年	平年	比較
播種期(月・日)		5. 2	5. 5	3
出芽期(月・日)		5.14	5.16	2
出穂期(月・日)		7. 5	7. 6	1
成熟期(月・日)		8. 4	8. 8	4
草丈(cm)	5月20日	11.1	8.3	2.8
	6月20日	46.9	47.3	0.4
稈長(cm)	7月20日	97	95	2
莖数(本/m ²)	6月20日	1117	961	156
穂数(本/m ²)	7月20日	710	628	82
成熟期における	稈長(cm)	93	95	2
	穂長(cm)	6.1	6.5	0.4
	穂数(本/m ²)	698	622	76
	1穂小花数	21.4	22.3	0.9
	不稔率(%)	2.4	1.5	0.9
成熟期の倒伏程度		中	少	-
子実重(Kg/a)		42.2	43.2	1.0
同上平年比(%)		98	100	2
リットル重(g)		695	657	38
千粒重(g)		41.2	43.2	2.0
整粒歩合(%)		84.9	91.0	6.1
整粒重(Kg/a)		35.8	39.4	3.6
粗蛋白質含量(%)		12.0	11.8	0.2

(注) 平年値は、前7か年中、平成5, 7年を除く5か年平均。

3) 春播小麦

作 況：不良

事 由：融雪期は3月31日で平年より8日早かった。耕鋤も早まり、平年より7日早い4月22日に播種した。播種後好天に恵まれ、出芽は良好で、平年より8日早い5月4日に発芽期となった。発芽後は低温と日照不足で生育は停滞し、茎数が平年より多めに経過した。出穂期は平年より1日早い6月30日であった。出穂後はむしろ高温となり、しかし多雨と日照不足が続いたため、ムギは軟弱に生育し、7月上旬から倒伏が始まり、7月中旬には全面倒伏した。成熟期は平年より4日早い8月12日であった。稈長はやや短く、穂は長く、穂数はきわめて多かった。倒伏と日照不足の影響で粒の充実が悪く、子実重と品質に悪影響した。収量は平年の77%の329kg/10aときわめて悪かった。千粒重は平年より軽く、リットル重は平年を大きく下回った。検査等級は等外で、穂発芽粒を除去すると2下にランクされるが、発芽粒は半数近いため到底除去できない。精選しても等外とならざるをえなかった。

以上のことから本年の作況は不良である。

春播小麦の生育期節と収量

項 目	品種名	ハルユタカ		
	年	本年	平年	比較
播種期(月・日)		4.22	4.29	7
出芽期(月・日)		5. 4	5.12	8
出穂期(月・日)		6.30	7. 1	1
成熟期(月・日)		8.12	8.16	4
草丈	5月20日	15.6	11.0	4.6
(cm)	6月20日	62.6	62.6	0.0
茎数	5月20日	339	332	7
(本/m ²)	6月20日	894	806	88

項 目	品種名	ハルユタカ		
	年	本年	平年	比較
成 稈長(cm)		85	89	4
熟 穂長(cm)		9.2	8.3	0.9
期 穂数(本/m ²)		628	541	87
の				
子実重 (kg/10a)		329	426	97
同上平年比 (%)		77	100	23
1リットル重 (g)		707	774	67
千粒重 (g)		33.9	36.8	2.9
検査等級		等外	2	-

注) 平年値は前7か年中、平成2年と平成8年を除く5か年の平均。

4) とうもろこし 作 況 : 良

事由：播種期は平年並の5月20日であった。出芽期は平年並であったが、出芽後は低温寡照に経過したため、6月中旬までの生育はやや不良であった。6月下旬から7月中旬の生育は、気温が高かったが、日照時間が少なく、やや不良であった。7月下旬は高温で、日照時間も多かったため、両品種とも抽雄期で3日、抽糸期で5日と登熟期は早まった。8月下旬から9月上旬までは日照時間が多く、生育は順調に進んだが、9月中旬以降、気温は低く、収穫時の熟度および総体の乾物率はほぼ平年並であった。乾物総重は極めて多く、TDN収量も平年比で「ワセホマレ」114%、「ダイハイゲン」が118%で極めて多かった。

以上のことから今年の作況は良である。

とうもろこしの生育期節と収量

項 目	ワセホマレ			ダイハイゲン		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期(月・日)	5.20	5.20	0	5.20	5.20	0
出芽期(月・日)	6.1	6.2	1	6.1	6.2	1
抽雄期(月・日)	7.27	7.30	3	7.28	7.31	3
抽糸期(月・日)	8.3	8.8	5	8.4	8.9	5
収穫期(月・日)	10.1	9.26	6	10.1	9.26	6
収穫期の熟度	黄中	黄初	-	黄初	黄初	-
草 丈 6月 20日	19.3	23.0	3.7	20.9	24.7	3.8
(cm) 7月 20日	115	118	3	121	124	3
8月 20日	245	244	1	250	251	1
稈 長(cm)9月 20日	209	210	1	218	217	1
葉 数 6月 20日	3.0	4.5	1.5	3.0	4.5	1.5
(枚) 7月 20日	9.4	11.0	1.6	9.8	11.3	1.5
8月 20日	12.9	13.7	0.8	14.0	14.0	0.0
生総重 (kg / 10a)	5156	4605	551	5875	5066	809
乾物茎葉重(kg / 10a)	665	601	64	717	618	99
乾物雌穂重(kg / 10a)	683	578	105	785	657	128
乾物総重 (kg / 10a)	1348	1179	169	1502	1270	226
推定TDN収量(kg / 10a)	967	851	116	1085	919	166
同上平年比 (%)	114	100	14	118	100	18
総体の乾物率 (%)	26.1	26.0	0.1	25.6	25.5	0.1
不稔個体割合 (%)	1.7	5.2	3.5	1.7	4.3	2.6

注) 平年値は前7か年中、平成2、平成5年を除く5か年の平均。

$$\text{推定TDN収量} = \text{乾物茎葉重} \times 0.582 + \text{乾物雌穂重} \times 0.850$$

5) 大豆

作 況 : やや不良

事 由：播種は平年と同日の5月21日であったが、播種後の5月下旬～6月上旬が平年に比べてかなり低温に推移したため、出芽期は平年より5～6日遅かった。出芽後の6月中旬後半は好天に恵まれ、その後も日照時間は少なかったものの気温が平年より高く推移したため生育は進み、開花始は平年並であった。開花始後の7月下旬は高温・多照で適度な降雨に恵まれたため、生育および開花・着莢は順調に進んだが、8月上旬終り～中旬は著しい低温・寡照・多雨で生育および莢の伸長が停滞した。8月下旬後半～9月上旬は平年と比較して平均気温が高く日照時間も多かったため、莢の伸長・肥大は順調に進んだが、9月中旬以降は低温・寡照あるいは多雨傾向で推移したため、登熟の進行は緩慢で、成熟期は平年より6～8日遅かった。

「キタムスメ」では一部に芯止り個体が発生したため着莢数は平年より少なく、百粒重がほぼ平年並であったことから、子実重は平年比91%と低収であった。一方「トヨコマチ」は着莢数が平年よりやや少なく、百粒重が平年並であったため、子実重は平年比98%とやや低収であった。子実の品質は「キタムスメ」が平年並に良好で、「トヨコマチ」は開花後の低温により一部軽度な臍および臍周辺着色粒の発生がみられたが平年より優った。

以上2品種を総合すると本年の作況はやや不良である。

大豆の生育期節と収量

項 目	品 種 名	キ タ ム ス メ			ト ヨ コ マ チ		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期 (月・日)		5.21	5.21	0	5.21	5.21	0
出芽期 (月・日)		6.8	6.3	5	6.9	6.3	6
開花始 (月・日)		7.22	7.22	0	7.19	7.19	0
成熟期 (月・日)		10.15	10.7	8	10.5	9.29	6
主 茎 長 (cm)	6月20日	5.5	8.5	3.0	6.6	9.6	3.0
	7月20日	38.2	43.8	5.6	38.1	38.2	0.1
	8月20日	72.2	72.2	0	55.3	52.6	2.7
	9月20日	73.9	70.8	3.1	56.1	52.5	3.6
	成熟期	71.8	70.9	0.9	54.9	51.7	3.2
本 葉 数	6月20日	0.4	1.0	0.6	0.4	1.0	0.6
	7月20日	6.0	7.3	1.3	5.8	6.8	1.0
主 茎 節 数	8月20日	13.1	12.2	0.9	10.7	10.6	0.1
	9月20日	13.4	12.4	1.0	10.7	10.6	0.1
	成熟期	13.2	12.3	0.9	10.7	10.6	0.1
分 枝 数 (本/株)	7月20日	0.4	3.1	2.7	1.7	3.5	1.8
	8月20日	5.4	5.2	0.2	4.1	4.6	0.5
	9月20日	5.7	5.2	0.5	4.2	4.3	0.1
	成熟期	5.5	5.0	0.5	4.0	4.2	0.2
着 莢 数 (個/株)	8月20日	84.1	70.2	13.9	67.4	57.9	9.5
	9月20日	62.8	63.8	1.0	50.7	52.3	1.6
	成熟期	60.8	66.2	5.4	50.7	52.6	1.9
子実重 (kg/10a)		272	298	26	272	277	5
同上平年比 (%)		91	100		98	100	
百粒重 (g)		32.2	31.8	0.4	33.9	33.7	0.2
屑粒率 (%)		1.4	0.8	0.6	1.0	5.3	4.3
品質 (検査等級)		1	1		1	2上	

注) 平年値は前7か年中、平成5年と8年を除く5か年の平均。ただし品質は平成6年を除く4か年の平均。

6) 小豆 作 況 : 良

事 由：播種は平年より1日早い5月21日であったが、播種後の5月下～6月上旬が平年に比べてかなり低温に推移したため、出芽期は平年より5日遅かった。出芽後の6月中旬後半は好天に恵まれ、その後も日照時間は少なかったものの気温が平年より高く推移したため、生育は順調に進み、開花始は平年より2～3日早かった。7月下旬は高温・多照で適度な降雨に恵まれたため生育は進んだが、「エリモショウズ」では高温による開花・着莢障害がみられた。8月上旬終り～中旬は著しい低温・寡照・多雨で推移したため、開花・着莢・莢の伸長が停滞したが、8月下旬後半～9月上旬は平年と比較して平均気温が高く日照時間も多かったため、莢の伸長・肥大は順調に進んだ。9月中旬以降は低温・寡照あるいは多雨傾向で推移したため、登熟の進行は緩慢で、「サホロショウズ」の成熟期は平年より9日遅く、「エリモショウズ」では10月7日の初霜により登熟が停止し、成熟期に達しなかった(熟莢率66%)。

両品種とも生育が良好であったため着莢数は平年より多く、登熟期間が長かったことにより百粒重が平年より重かったので、子実重は平年比131～159%と多収であった。子実の品質は両品種とも平年より劣り、「エリモショウズ」では灰色かび病の多発による腐敗粒が目立ち、屑粒率が高かった。

以上のことから本年の作況は良である。

小豆の生育期節と収量

項 目	品 種 名	エリモショウズ			サホロショウズ		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期(月・日)		5.21	5.22	1	5.21	5.22	1
出芽期(月・日)		6.15	6.10	5	6.15	6.10	5
開花始(月・日)		7.24	7.27	3	7.22	7.24	2
成熟期(月・日)		達せず	9.24	-	9.26	9.17	9
主 茎 長 (cm)	6月20日	2.3	2.8	0.5	2.3	2.8	0.5
	7月20日	13.4	10.2	3.2	12.2	9.4	2.8
	8月20日	48.2	38.3	9.9	45.5	34.2	11.3
	9月20日	50.7	40.5	10.2	46.6	33.7	12.9
	成熟期	51.3	40.0	11.3	46.6	32.6	14.0
本 葉 数	6月20日	0.1	0.3	0.2	0.1	0.3	0.2
	7月20日	4.7	4.7	0	4.6	4.5	0.1
主 茎 節 数	8月20日	12.3	12.2	0.1	10.3	10.2	0.1
	9月20日	13.2	12.3	0.9	10.7	10.2	0.5
	成熟期	13.3	12.4	0.9	10.7	10.1	0.6
分 枝 数 (本/株)	7月20日	0.5	0.3	0.2	0	0.2	0.2
	8月20日	4.7	2.1	2.6	5.5	2.3	3.2
	9月20日	4.7	1.9	2.8	5.5	2.3	3.2
	成熟期	4.5	1.9	2.6	5.5	2.2	3.3
着 莢 数 (個/株)	8月20日	18.7	27.0	8.3	38.0	30.7	7.3
	9月20日	47.1	41.1	6.0	49.8	39.6	10.2
	成熟期	45.3	42.1	3.2	49.8	39.2	10.6
子実重(kg/10a)		387	296	91	397	250	147
同上平年比(%)		131	100		159	100	
百粒重(g)		17.8	14.3	3.5	17.3	15.7	1.6
屑粒率(%)		8.7	2.5	6.2	3.2	3.2	0
品質(検査等級)		3中	2中		3中	2中	

注) 平年値は前7か年中、平成3年と5年を除く5か年の平均。

7) 菜豆 作 況 : 不 良

事 由：播種は平年より1日早い5月21日であったが、播種後の5月下～6月上旬が平年に比べてかなり低温に推移したため、出芽期は平年より「姫手亡」で2日、「大正金時」で6日遅かった。出芽後の6月中旬後半は好天に恵まれ、その後も日照時間は少なかったものの気温が平年より高く推移したため生育は順調に進み、開花始は両品種ともほぼ平年並であった。7月下旬は高温・多照で適度な降雨に恵まれたため、生育および開花・着莢は順調に進んだが、8月上旬終り～中旬は著しい低温・寡照・多雨となり、生育および莢の伸長・肥大は停滞ぎみであった。8月下旬後半は平年と比較して平均気温が高く日照時間も多かったため、「大正金時」では登熟が急激に進み、成熟期は平年より6日早かった。「姫手亡」では9月上旬までは好天に恵まれ登熟は順調に進んだが、9月中旬は低温・多雨傾向で推移したため登熟は停滞ぎみとなり、成熟期は平年並であった。

「大正金時」では着莢数は平年より多かったが、登熟期間が短かったため百粒重は平年よりかなり軽く、子実重は平年比89%と低収であった。一方「姫手亡」では着莢数が平年並で、百粒重は平年よりやや重かったが、子実重は平年比96%とやや低収であった。子実の品質は両品種とも平年より優った。

以上2品種を総合すると本年の作況は不良である。

菜豆の生育期節と収量

項 目	品 種 名	大 正 金 時			姫 手 亡		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期 (月・日)		5.21	5.22	1	5.21	5.22	1
出芽期 (月・日)		6.13	6.7	6	6.7	6.5	2
開花始 (月・日)		7.11	7.10	1	7.21	7.21	0
成熟期 (月・日)		9.1	9.7	6	9.21	9.21	0
草 丈 (cm)	6月20日	6.6	9.2	2.6	5.6	5.9	0.3
	7月20日	29.8	35.4	5.6	31.5	31.6	0.1
	8月20日	41.0	39.5	1.5	57.1	44.4	12.7
	9月20日	42.0	40.4	1.6	55.4	46.4	9.0
	成熟期	42.0	40.4	1.6	55.4	46.4	9.0
本葉数	6月20日	0.2	0.8	0.6	0.3	0.9	0.6
	7月20日	3.2	3.3	0.1	6.1	6.5	0.4
主 茎 節 数	8月20日	5.2	5.4	0.2	8.6	9.3	0.7
	9月20日	5.1	5.4	0.3	8.6	9.3	0.7
	成熟期	5.1	5.4	0.3	8.6	9.3	0.7
分 枝 数 (本/株)	7月20日	2.3	5.0	2.7	4.5	6.7	2.2
	8月20日	3.8	4.5	0.7	7.5	6.9	0.6
	9月20日	3.5	4.0	0.5	6.6	6.3	0.3
	成熟期	3.5	4.0	0.5	6.6	6.3	0.3
着 莢 数 (個/株)	8月20日	20.0	15.9	4.1	34.5	31.7	2.8
	9月20日	19.1	17.0	2.1	30.5	30.7	0.2
	成熟期	19.1	17.0	2.1	30.5	30.4	0.1
子実重 (kg/10a)		247	279	32	336	350	14
同上平年比 (%)		89	100		96	100	
百粒重 (g)		63.8	79.3	15.5	34.7	33.3	1.4
屑粒率 (%)		1.7	1.9	0.2	2.7	2.0	0.7
品質 (検査等級)		2中	3中		2上	2中	

注) 平年値は前7か年中、平成6年と7年を除く5か年の平均。

8) ばれいしょ

作 況 : 良

事 由：植付期は平年よりやや早かった。5月下旬から6月上旬の低温のため、植付から萌芽までの日数は「男爵薯」「紅丸」とも平年より5日長かった。6月中旬の高温多照で生育はやや回復したものの、6月の茎長は両品種とも平年より劣った。6月中旬以降気温が高めに推移したことから、開花始はほぼ平年並であった。しかし最低気温が高く日照時間が平年より少なかったため、地上部生育は軟弱徒長気味で、両品種とも倒伏した。8月中旬以降の低温で生育は遅延し、枯凋期は平年より11～12日遅かった。

塊茎の初期肥大は平年より劣り、8月上旬以降の低温、多雨と日照不足の影響で、両品種とも8月の上いも重、でん粉価は平年より劣った。しかし8月下旬から9月上旬にかけて、日照時間が長く、気温の日較差が大きい日が多かったことから、塊茎肥大に適した条件であった。枯凋期が平年より遅かったことも影響して、収穫期の上いも収量は「男爵薯」では平年比102%、「紅丸」では平年比126%となった。でん粉価は、「男爵薯」では平年より0.8%劣ったが、「紅丸」では平年を2.0%上回った。このため「紅丸」のでん粉収量は平年比143%と多収であった。

以上により両品種の結果を総合すると、本年の作況は良である。

ばれいしょの生育期節と収量

項 目	品種名	男 爵 薯			紅 丸		
	年・比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期(月・日)		5.9	5.12	3	5.9	5.10	1
萌芽期(月・日)		6.5	6.3	2	6.3	5.31	4
開花始(月・日)		7.4	7.6	2	7.5	7.3	2
枯凋期(月・日)		9.18	9.6	12	10.13	10.2	11
茎長(cm)	6月20日	10.0	16.3	6.3	10.6	20.3	9.7
	7月20日	66	48	18	75	74	1
	8月20日	73	52	21	123	92	31
茎 数 (本/株)	6月20日	3.2	3.7	0.5	3.9	3.7	0.2
	7月20日	3.3	3.8	0.5	3.9	4.1	0.2
	8月20日	3.3	3.8	0.5	3.9	4.2	0.3
でん粉価 (%)	8月20日	14.0	14.8	0.8	14.2	14.4	0.2
	9月20日		-		17.2	15.4	1.8
上いも数(個/株)		10.0	10.5	0.5	12.5	12.5	0
平均一個重(g)		119	111	8	134	107	27
上いも収量(Kg/10a)		4512	4407	105	6356	5042	1314
同上平年比(%)		102	100	-	126	100	-
でん粉価(%)		14.4	15.2	0.8	17.2	15.2	2.0
でん粉収量(Kg/10a)		607	623	16	1031	720	311
同上平年比(%)		97	100	-	143	100	-

(注)平年値は前7か年中、「男爵薯」では平成3年と6年、「紅丸」では平成6年と8年を除く5か年平均。

9) てんさい

作 況 : やや不良

事 由：移植栽培の播種・移植とも、ほぼ平年並に行った。その後の活着、生育は順調に経過した。直播栽培の播種もほぼ平年並に行い、出芽まで日数も平年並で、ほぼ平年並に出芽期に達した。5月上旬に強風が続いたが、防風ネットを設置したため被害はなかった。5月下旬以降、低温に経過したため、生育は停滞した。6月中旬になって全般に高温・多雨・寡照に経過し、地上部の生育はやや旺盛になり、根部の生育は概ね平年並に近づいた。7月下旬から8月1半旬は極めて高温多照に経過し、地上部生育はやや抑制され、根部の肥大は再び緩慢になった。8月2半旬以降は一転して極めて低温・多雨・寡照に経過したため、さらに根部の肥大は停滞した。8月下旬以降もやや低温に経過し、根部の肥大は緩慢であった。収穫は平年並の10月20日に行った。根重は平年を大きく下回り、根中糖分は平年を大きく上回った。そのため、糖量では平年をやや下回るに留まり、のべ3品種平均の対平年比は97となった。

以上のことから当場の作況はやや不良であった。

表 てん菜の生育期節と収量

栽培法		移 植						直 播		
品 種 名		スターヒル			モノホマレ			モノホマレ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播 種 期 (月日)		3.27	3.29	2	3.27	3.29	2	3.27	3.29	2
移 植 期 (月日)		5.7	5.9	2	5.7	5.9	2	-	-	-
出 芽 期 (月日)		-	-	-	-	-	-	5.20	5.22	2
収 穫 期 (月日)		10.20	10.20	0	10.20	10.20	0	10.20	10.20	0
草 丈 (cm)	6月20日	19.0	25.2	6.2	19.5	22.5	3.0	10.0	13.3	3.3
	7月20日	48.2	51.0	2.8	56.9	50.2	6.7	50.6	47.3	3.3
	8月20日	57.8	60.4	2.6	61.0	59.7	1.3	63.2	65.0	1.8
	9月20日	56.9	60.0	3.1	62.6	60.1	2.5	64.8	65.2	0.4
生葉数 (枚)	6月20日	13.4	12.2	1.2	12.9	11.0	1.9	5.7	6.1	0.4
	7月20日	24.0	22.9	1.1	23.4	20.4	3.0	19.6	18.9	0.7
	8月20日	27.0	30.4	3.4	25.1	26.7	1.6	25.9	27.4	1.5
	9月20日	31.7	35.3	3.6	28.9	32.2	3.3	27.6	29.5	1.9
根 周 (cm)	7月20日	21.8	19.9	1.9	18.9	19.2	0.3	14.7	15.7	1.0
	8月20日	28.5	30.5	2.0	25.9	27.4	1.5	22.6	25.0	2.4
	9月20日	31.8	35.6	3.8	29.1	32.0	2.9	27.2	29.3	2.1
茎 葉 重 (kg/10a)		3,745	5,483	1729	4,455	5,925	1470	4,490	5,658	1168
根 重 (kg/10a)		4,903	6,170	1267	5,392	5,911	519	4,370	5,028	658
平 年 比		79	100	21	91	100	9	87	100	13
根中糖分 (%)		20.12	16.93	3.19	19.69	17.90	1.79	18.98	16.77	2.11
平 年 比		119	100	19	110	100	10	113	100	13
糖 量 (kg/10a)		986	1,045	59	1,061	1,058	3	829	843	14
平 年 比		94	100	6	100	100	0	98	100	2

注) 平年値：移植は、前7ヶ年中、「スターヒル」が平成2、3年を除く5ヶ年の平均、「モノホマレ」が前8ヶ年中、平成2、7年および3年(欠測)を除く5ヶ年の平均。直播は前5ヶ年の平均。

10) 牧 草

作 況 : 良

オーチャードグラス混播及び単播草地（混播草地の混播相手はシロクローバ）の調査結果を第1表に、チモシー混播及び単播草地（混播草地の混播相手はアカクローバ）の調査結果を第2表に示した。萌芽期は平年に比べ5～7日早かった。しかし各草地のイネ科牧草の出穂始と出穂期、並びにマメ科牧草の開花始は平年に比べ、オーチャードグラス単播区の出穂始が4日早かった以外は、1～4日遅く、またオーチャードグラス混播草地のシロクローバは開花始に至らないなど、生育の進み方は平年よりやや遅かった。1番草の乾物収量は、全草地の合計の平年比が105と、平年より多かった。2番草以降の生育は、混播草地では、乾物収量の合計の平年比が125と良好であったが、単播草地では、乾物収量の合計の平年比が95と不良であった。年間合計乾物収量の平年比は、オーチャードグラス混播及び単播草地がそれぞれ118と102、チモシー混播及び単播草地がそれぞれ117と95で、全草地の乾物収量の合計の平年比は109であった。

以上のことから本年の作況は良である。

第1表 オーチャードグラス混播・単播草地の生育期節と収量

項目・番草	調査日	混播草地				単播草地				
		本年	平年	比較	平年比	本年	平年	比較	平年比	
オーチャードグラス萌芽期	-	4.18	4.25	7	-	4.20	-	-	-	
シロクローバ萌芽期	-	4.16	4.22	6	-	-	-	-	-	
冬枯れ程度	4.30	微	-	-	-	微	-	-	-	
全体被度(%)	5.19	93	92	1	-	-	-	-	-	
マメ科被度(%)	5.19	48	60	12	-	-	-	-	-	
オーチャードグラス出穂始	-	5.30	5.29	1	-	5.29	6.2	4	-	
オーチャードグラス出穂期	-	6.9	6.5	4	-	6.8	6.6	2	-	
シロクローバ開花始	-	未	-	-	-	-	-	-	-	
オーチャードグラス草丈(cm)	5.19	38	34	4	-	41	34	7	-	
1番草	6.5	80	82	2	-	82	78	4	-	
2番草	7.18	101	91	10	-	85	81	4	-	
3番草	8.22	85	77	8	-	69	64	5	-	
4番草	10.8	59	56	3	-	54	59	5	-	
シロクローバ草丈(cm)	5.19	24	18	6	-	-	-	-	-	
1番草	6.5	43	40	3	-	-	-	-	-	
2番草	7.18	55	52	3	-	-	-	-	-	
3番草	8.22	49	42	7	-	-	-	-	-	
4番草	10.8	40	31	9	-	-	-	-	-	
マメ科率(%)	1番草	6.5	36.0	26.0	10.0	-	-	-	-	
	2番草	7.18	43.0	31.2	11.8	-	-	-	-	
	3番草	8.22	36.4	18.2	18.2	-	-	-	-	
	4番草	10.8	47.6	22.2	25.4	-	-	-	-	
乾物率(%)	1番草	6.5	11.3	15.2	3.9	-	15.9	17.9	2.0	
	2番草	7.18	13.5	16.7	3.2	-	23.0	23.4	0.4	
	3番草	8.22	16.4	17.6	1.2	-	20.5	22.0	1.5	
	4番草	10.8	15.7	20.0	4.3	-	18.6	23.7	5.1	
生草収量(kg/10a)	1番草	6.5	2684	1885	799	142	1630	1205	425	135
	2番草	7.18	2725	1674	1051	163	852	940	88	91
	3番草	8.22	1405	1174	231	120	785	728	57	108
	4番草	10.8	1163	631	532	184	535	476	59	112
	合計		7977	5364	2613	149	3802	3349	453	114
乾物収量(kg/10a)	1番草	6.5	304	319	15	95	258	215	43	120
	2番草	7.18	368	272	96	135	197	217	20	91
	3番草	8.22	229	205	24	112	161	160	1	101
	4番草	10.8	183	126	57	145	99	112	13	88
	合計		1084	922	162	118	715	704	11	102

注) 1. オーチャードグラスは「キタミドリ」、シロクローバは「カリフォルニアラジノ」である。

2. 平年値は平成2年から平成8年までの前7か年のうち、混播草地は平成4年と平成7年を、単播草地は平成2年と平成7年を除く5年間の平均値。

第2表 チモシー混播・単播草地の生育期節と収量

項目・番草	調査日	混播草地				単播草地			
		本年	平年	比較	平年比	本年	平年	比較	平年比
チモシー萌芽期	-	4.18	4.23	5	-	4.20	-	-	-
アカクローバ萌芽期	-	4.16	4.22	6	-	-	-	-	-
冬枯れ程度	4.30	微	-	-	-	微	-	-	-
全体被度(%)	5.19	91	88	3	-	-	-	-	-
マメ科被度(%)	5.19	46	64	18	-	-	-	-	-
チモシー出穂始	-	6.19	6.16	3	-	6.18	6.16	2	-
チモシー出穂期	-	6.23	6.20	3	-	6.22	6.20	2	-
アカクローバ開花始	-	6.25	6.22	3	-	-	-	-	-
チモシー草丈(cm)	5.19	39	30	9	-	38	35	3	-
1番草	6.18	107	102	5	-	100	101	1	-
2番草	8.8	85	89	4	-	81	69	12	-
3番草	10.8	50	49	1	-	42	45	3	-
アカクローバ草丈(cm)	5.19	30	18	12	-	-	-	-	-
1番草	6.18	76	79	3	-	-	-	-	-
2番草	8.8	81	76	5	-	-	-	-	-
3番草	10.8	35	49	14	-	-	-	-	-
マメ科率(%)	1番草	6.18	68.0	52.4	15.6	-	-	-	-
	2番草	8.8	96.3	60.4	35.9	-	-	-	-
	3番草	10.8	81.5	70.4	11.1	-	-	-	-
乾物率(%)	1番草	6.18	13.8	14.5	0.7	-	21.9	21.3	0.6
	2番草	8.8	14.4	18.6	4.2	-	22.9	25.0	2.1
	3番草	10.8	14.7	20.2	5.5	-	23.8	30.9	7.1
生草収量(kg/10a)	1番草	6.18	4525	3756	769	120	1986	2138	152
	2番草	8.8	3373	1819	1554	185	739	657	82
	3番草	10.8	776	865	89	90	344	344	0
	合計		8674	6440	2234	135	3069	3139	70
乾物収量(kg/10a)	1番草	6.18	625	544	81	115	434	461	27
	2番草	8.8	484	328	156	148	169	154	15
	3番草	10.8	113	172	59	66	80	104	24
	合計		1222	1044	178	117	683	719	36

注) 1. チモシーは「ノサップ」、アカクローバは「サップロ」である。

2. 平年値は平成2年から平成8年までの前7ヶ年のうち、混播草地・単播草地とも平成2年と平成7年を除く5年間の平均値。

付表 各作物の耕種概要(1)

作物名	1区面積 m ²	反復	前作物	畦幅 cm	株間 cm	1株 本数	播種 粒数 粒/m ²	播種量 kg/10a	株数 株/10a
1. 秋播小麦	6.0	4	緑肥大豆	30	条播	-	340	-	-
2. 二条大麦	7.2	3	緑肥えん麦	30	条播	-	340	-	-
3. 春播小麦	7.5	4	てん菜	30	条播	-	340	-	-
4. とうもろこし	11.2	3	菜豆	66	25.0	1	-	-	6,060
5. 大豆	9.6	3	二条大麦	60	20.0	2	-	-	8,333
6. 小豆	9.6	3	二条大麦	60	20.0	2	-	-	8,333
7. 菜豆	9.6	3	二条大麦	60	20.0	2	-	-	8,333
8. ばれいしょ	10.6	3	緑肥大豆	66	40.0	1	-	-	3,788
9. てん菜	100.0	3	緑肥大豆	60	23.8	1	-	-	7,003
10. 牧草									
OG・WC	12.5	4	緑肥えん麦	散播	-	-	-	OG:0.9 WC:0.4	-
TY・RC	12.5	4	緑肥えん麦	散播	-	-	-	TY:1.0 RC:0.4	-

注) OG・WCはオーチャードグラス・シロクローバ混播草地。

TY・RCはチモシー・アカクローバ混播草地。

付表 各作物の耕種概要(2)

作物名	施肥量(kg/10a)					備考
	N	P205	K20	MgO	堆肥 其他	
1. 秋播小麦	11.0	14.4	9.6	4.0		
2. 二条大麦	4.0	16.2	9.4	3.4		
3. 春播小麦	10.0	18.0	12.0	5.0		
4. とうもろこし	14.0	22.0	12.0	4.0	3,000	苦土炭カル:150
5. 大豆	1.3	20.0	8.0	2.7		
6. 小豆	4.0	20.0	9.3	3.3		
7. 菜豆	4.0	16.0	9.3	3.3		
8. ばれいしょ	9.0	13.5	11.7	3.6	2,000	
9. てん菜	15.0	21.3	13.8	5.0	3,000	
10. 牧草						
OG・WC	6.0	12.0	14.6			造成時 炭カル:200 ダブリ:50
TY・RC	6.0	12.0	14.0			同上